

湯川だより



第3号 2012/09/25
発行：御代田町 町民課

～安定したごみ処理の実現と新クリーンセンター建設に向けて～

環境影響評価本格的に始まる

新クリーンセンター建設に係る環境影響評価(環境アセス)の手続が本格的に始まりました。現在、県の審議機関である「長野県環境影響評価技術委員会」における第1回審議が行われており、今年の12月までには審議が終了する予定です。このため、年明けには、現況調査に着手すべく準備が進められていますので、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

環境アセス方法書 縦覧・意見収集が終了

7月23日から各縦覧場所で行われていた、環境アセス方法書の縦覧が、8月22日に終了しました。9月5日まで設けられた意見書提出期間における、意見書の受理件数は、1名のかたから事業計画や調査地点の修正、放射性物質等に係る項目として31件のご意見が提出されました。

佐久市では、長野県環境影響評価条例に基づき、意見書の写しを県知事、各関係自治体へ送付しました。今後の手続は、この意見書の内容を考慮し、関係自治体の長が県知事に意見書を送付します。

第2回 御代田町環境影響評価方法書検討委員会が開催



▲8月21日「御代田町環境影響評価検討委員会」

8月21日、御代田町で第2回「御代田町環境影響評価方法書検討委員会」が開催されました。検討委員会は、有識者、関係区長、町議員等から構成されています。委員長は、日本環境衛生センターの増淵氏が務め、佐久市を中心に進める新クリーンセンター建設に係る環境アセス方法書の内容について町としての意見集約をするため協議を行っています。

第2回の検討委員会では、調査項目、調査箇所、範囲、期間等、方法書の具体的内容について、増淵委員長の専門的な解説を交えながら、記載されている項目ごとに活発な検討が行われました。

委員会は、次回を以って環境アセス方法書に対する検討を終了し、その結果を踏まえた上で、県知事に御代田町長から環境アセス方法書に係る意見書を提出する予定です。

長野県環境影響評価技術委員会が開催



9月6日佐久市岩村田の浅間会館を会場に、長野県環境影響評価技術委員会が開催され、新クリーンセンター建設事業に係る環境アセス方法書の第1回審議が行われました。

委員会では、事業計画の概要を佐久市より説明した後、建設候補地を含む佐久市、御代田町の調査地点を巡る現地調査を行いました。会場に戻り方法書の内容について説明し、全体を通して質疑応答を受けました。亀山委員長進行のもと、審議は出席委員全員から質問等が挙げられ、それぞれ専門的見地から、建設候補地やその周辺環境について多くのご意見が出されました。

▲今回開催された委員会の資料及び記録等は、長野県ホームページで公表されています。次回の委員会は、10月11日に長野県庁にて方法書の第2回審議が予定されています。

『長野県環境影響評価技術委員会とは』

県知事は、事業者より提出された環境アセス方法書及び準備書について、環境保全の見地から意見を述べますが、その際、科学的、専門的見地からの意見を十分に把握するために、長野県環境影響評価技術委員会の意見を聴きます。この技術委員会は、現在14名の学識経験者で構成されており、県内外の大学教授らや関係機関の専門家のかたが委員を務めています。

【長野県環境影響評価技術委員名簿(長野県ホームページ公表)】

氏 名 (50音順)	職 名 等
梅 崎 健 夫	信州大学工学部准教授
大 窪 久美子	信州大学農学部教授
小 澤 秀 明	長野県環境保全研究所水・土壌環境部長
片 谷 教 孝	桜美林大学リベラルアーツ学群教授
亀 山 章	東京農工大学名誉教授
陸 齊	長野県環境保全研究所主任研究員
佐 藤 利 幸	信州大学理学部教授
塩 田 正 純	芝浦工業大学工学部建築工学科非常勤講師
鈴 木 啓 助	信州大学理学部教授
富 樫 均	長野県環境保全研究所主任研究員
中 村 寛 志	信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター教授
中 村 雅 彦	上越教育大学教授
野見山 哲 生	信州大学医学部教授
花 里 孝 幸	信州大学山岳科学総合研究所教授

- 御代田町を含めた協議の場が整う - 1市3町事務レベル協議始まる

平成26年4月を目途に、新クリーンセンターの事業体となる一部事務組合設立に向け、事業費負担など各種調整事項について協議を行う1市3町(佐久市、軽井沢町、立科町、御代田町)事務レベル協議会が、9月25日に開催されます。



▲5月16日開催 第11回事務レベル協議会
御代田町はオブザーバーとして参加

御代田町は、これまでの事務レベル協議会でオブザーバーという立場でしたが、町関係区のご理解により、環境アセスに着手という段階を迎えたことから、同協議会に対等な立場で参加することが決定しました。

新クリーンセンターの建設候補地は、佐久市と御代田町の市町境に位置し、御代田町にとって新クリーンセンターの建設及び稼働が周辺地域の皆さまに大きな関わりをもつことから、町として責任を持って新クリーンセンターの運営に携わるべく、今後の協議に臨んでいきます。



御代田町観光キャラクター
みよたん

ちよっとそこまで♪



開拓と玉の里『児玉』

児玉区は江戸中期に、小田井村の荒地を開発して興った新開の村で、湧水に恵まれた地であることから、泉や湧水を意味する「玉」を用いて、「児玉」と名付けられたそうです。区内には、開拓神として諏訪大明神、農業神として稻荷社、作神として山の神、学問の神として天神社などが祀られています。

県道沿いに道祖神や地蔵尊が並ぶ交差点を中学校方面に進むと、白い鳥居が凜と立つ「諏訪神社」があります。玉の里にふさわしく神社の前には、この地の田畑を潤す児玉用水が流れています。

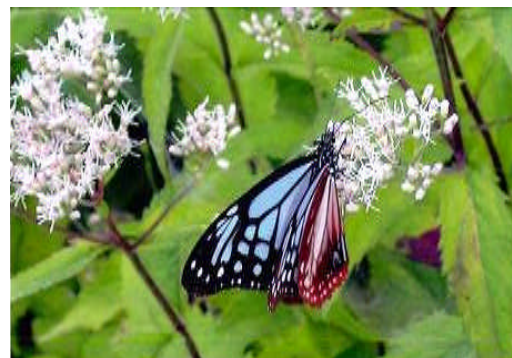
神社の広場では春と秋の2回、お祭が行われ、地元児玉区の青雲会の皆さんが焼き鳥やわたあめ等を作り、区の子どもたちで賑わいます。昔は、このような村祭りが至るところで行われ、村人や子どもにとっての娯楽、交流の場であり、絆を深める大イベントだったそうです。昨今では、生活文化が変わり、少子化や若い世代の転出による人手不足等の様々な要因から、神社のお祭や盆踊りといった昔から続く「ムラの行事」が無くなりつつあります。諏訪神社の広場で行われる、こうした取組みが区の若い皆さんのお力で継続されているということに、地域の「繋がり」を深く感じました。



▲諏訪神社でのお祭(春)

アサギマダラの渡りが始まる

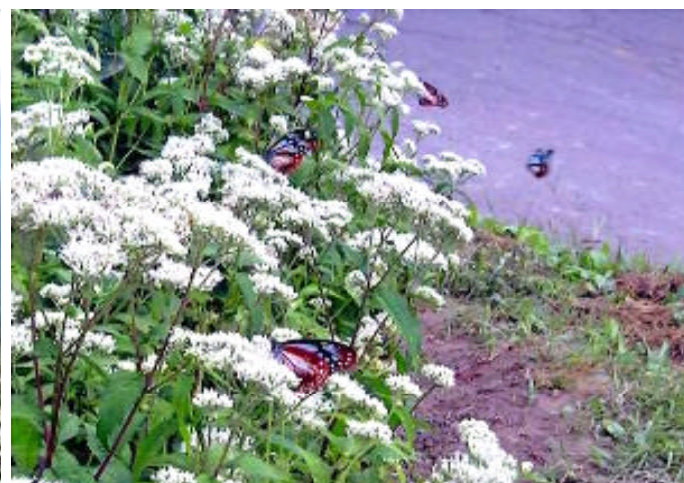
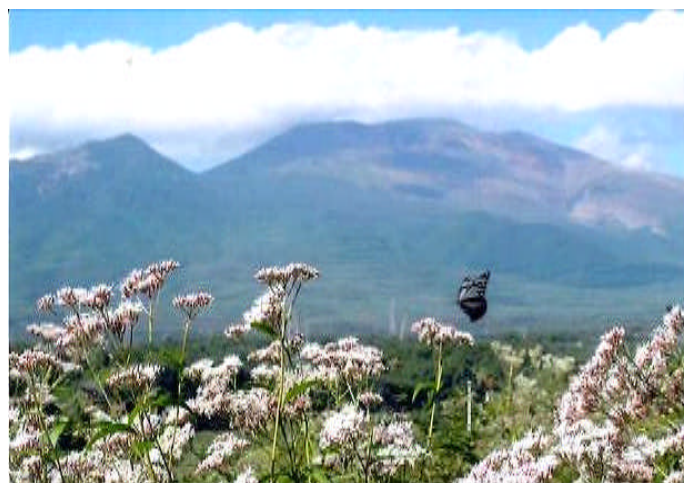
～ 2000km を翔る、海を渡る蝶 ～



▲フジバカマとアサギマダラ(面替区)

海を渡る蝶として有名な「アサギマダラ」ですが、渡りの行動やその生態は謎が多く、さかんに調査・研究が進められています。渡り鳥のように、春と秋に最長で 2000km 以上の距離を飛翔し、遠く海を渡ってくるという行動には驚かされます。小さな体と可憐な羽のどこにそのようなエネルギーを持っているのでしょうか。

群れで飛来するアサギマダラの行方を調べるために、1980年代頃から、マーキング調査が全国で行われていますが、昨今では多くの観察会や研究会、マーキングツアーなどの活動が盛んです。



多くの謎と魅力を持つアサギマダラを呼ぼうと、面替区では「アサギマダラの会」が、区内の遊休農地を整備し、5ヶ所の農地にアサギマダラが蜜を吸いに集まるといふフジバカマやヨツバヒヨドリを植える、熱心な活動を行っています。今年で4年目を迎える活動も、荒れ地と化していた農地は毎年花畑でいっぱいとなり、昨年は1000匹を超すアサギマダラが面替の地に飛来しました。春は5月中旬から7月にかけて、秋は9月中旬から10月中旬にかけて、面替区でアサギマダラを見ることができます。特に秋の飛来が、数も多いそうですよ。(ゆ)

編集後記

短い夏が終わりを告げ、そろそろ衣替えの時期になります。夏は儚く短い、本当にそう感じます。皆さまはどのような夏を過ごしましたか？夏祭りや花火、海や川、バーベキュー等、体中で夏を感じることができたでしょうか。

今年の龍神まつりでは、御代田町のゆるキャラ「みよたん」が登場しました。今後も色々な行事に登場し、地域を繋ぐより身近な存在になってほしいと思います。この湯川だよりも、新クリーンセンターという佐久地域を繋ぐ1つのキーワードを基に皆さまにより身近な情報紙となるよう今後も創意工夫しながら発行していきます。夜空のキャンパスに描かれた色鮮やかな花火と甘いかき氷に、思い出が詰まった夏。来年の夏はどんな思い出を残せるのかな…。

【発行】 御代田町役場 町民課 環境衛生係
御代田町大字御代田 2464 番地 2 電話：0267-32-3111 (内線 47)
【佐久市問合せ先】 佐久市役所 環境整備推進局 新クリーンセンター整備推進室
佐久市中込 3056 番地 電話：0267-62-2111 (内線 492)